

# 図書館だより

No.83 December, 2013



## 目次

巻頭エッセイ	音楽と数学の関わり	電気電子工学科	宮崎 浩一	1
読書のすすめ	読書をもっと楽しみましょう	電気電子工学科	ウリントヤ	2
	読書の目的	電気電子工学科	吉田 智博	3
	読書が新たな視点を生む	材料工学科	岩田 憲幸	4
私の一冊			各学科学生6名	5
リレー連載<古典への誘い>	「古典」の現代的意義	一般科目文科	河合 伸治	7
平成25年度前期図書館利用状況				8
Information	編集後記			9

# 巻頭エッセイ

## 音楽と数学の関わり



電気電子工学科 宮崎 浩一

皆さんの多くは、普段、自分の好きな音楽をオーディオCDで聴いたり、インターネットを利用してiPod等のポータブルオーディオプレーヤーにダウンロードして聴いたりしていると思います。また、バンド活動等で演奏する立場で音楽に関わっている人や、カラオケで歌うことが好きな人もいるでしょう。自ら音楽を聴こうとしなくても、テレビや街中で音楽に触れる機会がたくさんあります。このように皆さんの生活の中には、「音楽」が深く浸透しています。一方、工学を学ぶ上で基礎となる重要な科目の一つ「数学」、学生の皆さんは高専で日々勉強していますね。この「音楽」と「数学」の関わりについて、桜井進・坂口博樹共著「音楽と数学の交差」（大月書店）を読んで、非常に興味深く感じたので、ここで紹介させて戴きます。

私は、趣味でトロンボーン（管楽器の中で唯一スライドを動かして音の高さを変える特徴的な楽器）を長年演奏し、市民吹奏楽団に所属している関係で、音楽を演奏する立場で長年音楽に関わっています。また、本校吹奏楽部の顧問であり、指揮者として演奏指導もしていますが、音楽を専門的に学んだことはなく、30名程度の個々の演奏を全体として1つの音楽にまとめるにはどうしたらいいのか、最初は戸惑いました。まずは、指揮によって全体のテンポやリズムが1つになることが重要です。全員のリズム感が一緒になることで、生まれる音は人数分の足し算ではなく、それ以上の効果が音に加わります。次に、異なる高さの音が重なって生まれるハーモニーです。音程の合った美しいハーモニーが生まれたときには、本当にぞくぞくします。

ハーモニーの基になるのは音階や音律です。「音楽と数学の交差」の中では、音階と音律の数学との関連性について記されています。音の高さは、1秒間の振動数（単位Hz、ヘルツ）によって表されます。音の高さの並びである音階（12半音階：ド、ド#、レ、レ#、ミ、ファ、ファ#、ソ、ソ#、ラ、ラ#、シ、ド）は、振動数の並び、つまり数列です。そして、音階のそれぞれの音を調律する基準を音律といい、音階の各構成音の振動数の比を表しています。ここで、振動数の差

ではなく比なのかというのは、人間が受ける刺激の強さS（物理的な観測値）と感ずる感覚の強さR（感覚値）の関係を公式化したウェーバー・フェヒナーの法則より理解できます。

$$R = k \log(S/S_0) \quad (1)$$

ここで、 $S_0$ は $R=0$ となるS、 $k$ は刺激固有の定数です。音の高さについては、1オクターブ（例えば、ドと次に音の高さが異なるド）では、物理的な観測値の振動数は2倍違います。2オクターブになると $2^2=4$ 倍、 $n$ オクターブだと $2^n$ 倍違います。この関係は1オクターブの中でも続いています。音律の1つのである平均律では、1オクターブを等比的に均等な音程に分割し、1オクターブを2とすると1オクターブには12個の半音があるので、2の12乗根 $2^{1/12}=12\sqrt{2}$ が半音です。平均律の12半音階は、

$$1, 2^{1/12}, 2^{2/12}, 2^{3/12}, \dots, 2 \quad (2)$$

という等差数列となり、これが感覚的に均等な12等分となります。したがって、基音P[Hz]から $n$ 番目の音の振動数R[Hz]は

$$R = P \times 2^{(n-1)/12} \quad (n=1,2,3,\dots) \quad (3)$$

と表せ、これを $n$ について解くと、

$$n = 12 \log_2(R/P) + 1 \dots \quad (4)$$

となり、 $n$ は感覚的に均等な半音階で、(1)式と同様に感覚値は物理的な観測値の対数値となっています。

平均律は移調が簡単でメロディ的には良いのですが、(2)式は無理数であるためハーモニーを構成すると美しく響きません。ハーモニーを構成する各音の振動数が単純な整数比（有理数）でないと美しく響きません。そのため、数学者としても有名なピタゴラスがピタゴラス音律を考案し、さらに美しい響きが求められて純正律が生まれました。吹奏楽の演奏では純正律の美しい響きが求められており、私の吹奏楽部指導での一つの大きな課題となっています。

音楽は、古代ギリシャの時代では数学の4大科目の中の1科目（他は算術、幾何学、天文学）であり、長年の音楽と数学の関わりが「音楽と数学の交差」には記載してあります。興味ある方は是非一読を。

# 巻頭エッセイ、読書のすすめ



電気電子工学科 ウリントヤ

## 読書をもっと楽しみましょう

私は、町から遠く離れた草原の故郷で楽しい子供時代を過ごしました。本屋さんもなかったのですが、月に一度馬に乗って来る郵便屋さんの大きな皮の鞆にはいつもたくさんの本が入っていました。親や学校の先生が注文してくれた本でした。そこで本を読む楽しさを覚えはじめました。大きくなり大きな町の大学に入り、そして日本に留学して来て、びっくりするぐらい大きな本屋さんと出会いました。本を自由に選んで読むのは楽しいなと思いました。そのころのことですが、たまに使う室蘭から札幌までの電車の中では、ほとんどの人々は本や新聞を読んでいた。ところがそれから十数年たった今、時代の移り変わりを感じさせるかのように人々が手に持っているのは携帯電話やパソコンに変わって来ています。現代の情報社会を生きていく上で必要な情報を素早く手に入れるのに便利な楽しいもので、とても有難く思います。一方、現代社会の便利さを楽しむと同時に本を読む大切さは忘れてはならないと思います。現代社会を生きていくからこそ先人の知恵を学ぶこと、物事に対する正しい知識を学ぶことはとても大切で、それらを正しく深く学ぶにはやっぱり本を読むことが一番だと思います。

本にもいろんな種類があり、専門分野の本、生活や社会のあり方に関する本、健康や心理に関する本、人格形成に関する本など様々です。自分の必要に応じて本を正しく選ぶこともとても大切ですが、どんな本でも必ず自分に役に立つ何かを教えてください。

最近読んだ明治大学の教育学者齋藤孝先生の「教育力」という本には「教育力の基本は学び上手になること、共に学び合う関係が大切」と書かれていました。この言葉は私たち教育の現場にいる者にとっては身にしみる言葉かもしれません。人間は、人生でめぐり合うすべての人と何かを学び合えることが必ずあり、そうしてお互いに成長し続けて行くのだと思います。

一年前に読んだ「理系白書（この国を静かに支える人たち）」という本には、日本の社会における理工学の立ち位置を詳しく分析した内容が書かれていました。疑問に思うところもありましたが、少なくともその本を読んで、日本、そして世界の成長を静かに支える理

工学分野における自分の仕事や研究により誇りを持つようになりました。そして理工学を専門分野として選んで入学して来た学生の皆さんにも自信を持って、誇りを持って前へと進んで行ってもらいたいと思っています。

読書の習慣として小説を読むことも精神的に豊かになる一つの方法だと思います。私の大学時代、女子学生同士で小説を読んで話し合うのは一つの楽しみでした。世界の名作もかなり読みました。それで語学力もアップしたような気がします。ここでは、その中からイギリスの小説家シャーロット・ブロンテ（19世紀）の「ジェーン・エア」（原題：Jane Eyre）（日本語版もあります）という長編小説をお勧めしたいと思います。Jane Eyreは出版当時から大人気をよび、主人公Janeが周囲の人々の意地悪や当時の社会の因習にもめげずに雄々しく生き抜き最後に幸せになることを描いた物語です。物語の中に描かれた当時社会に対する男女平等意識という反骨精神、財産や身分にとらわれず、自由恋愛という形で結婚するという点はその時の文学において画期的であったそうです。主人公Janeは外見的には決して美人とはいえませんが、しかし過酷な運命にさらされながらも、持ち前の知性と慈愛に満ちた精神でたくましく生き抜いていく彼女の姿に誰もが魅了されると思います。これから新しい時代を生きていく女子学生たち、もちろん男子学生たちもいろいろな新しいことにチャレンジし、試練や困難を乗り越えて行くのに必ず参考になるものが得られると思います。

読書の時間を作るなかなかたいへんかと思いますが、たまに気分転換したいとき、何かの悩みを解決したいとき、他人がどう生きたかを知りたいとき、短い時間でも見つけて本を楽しむのはいかがでしょうか。



# 巻頭エッセイ、読書のすすめ



電気電子工学科 吉田 智博

## 読書の目的

みなさん初めまして。今年の4月から電気電子工学科に着任した吉田といたします。まだまだ不慣れですが、宜しくお願いします。

今回、「読書のすすめ」の紙面を頂きましたが、私は読書を趣味としている訳でもなく、これまでに執筆されていた先生方のようにオススメできる本がある訳でもありません。しかし、本を一切読まないわけでもありません。では、私がどんな時に本を開くのか？について、お話をさせて頂けたらと思います。

私が本を手取る時は、大抵本を読む目的があります。講義をしていても、「これは何の為に理解するのですか？何に使うのですか？」と尋ねられますが、何か目的がないと中々物事を始めようとは思わない人も少なからずいるのではないのでしょうか。（読書に限らず、勉強でもスポーツでも趣味として楽しんでいる人は別だと思いますが。）

まず、私が本を開く目的の1つは、単純に何かを知る為です。例えば、講義の準備や、研究活動を行う上で何か分からないことがあったり、他の本では説明を省略してあったり、厳密ではない説明がしてあったりするとき、他の手掛かりを探して本を取ります。これは、みなさんもレポートを書く時や、テスト勉強の時と同じような経験があるのではないのでしょうか。

2つ目は、自分の考えに行き詰まったとき、自己の成長が必要となる時に、その手助けになる情報や、自分と異なる思考や、視点を探すために本を開きます。私は最近だと、「論理的な考え方」だとか、「会社を辞めるのはあと1年待ちなさい」だとか、「折れない心をつくるたった1つの習慣」という本を読みました。この目的は、自己啓発のためや、何か自分に足りない考え方を得るため、誰かに「もっと分かり易い説明をしなさい」と言われたのをきっかけとして情報を得ることを目的にしています。

3つ目は、論理的思考を養うためにミステリー小説を読んでいたことがあります。これは、私が高専専攻科の1年生でインターンシップに行った時、その会社の技術者の方が「論理的な思考を身に付けるためには、ミステリー小説を読むのが良いよ。最初は、何も考え

ず読んで、2回目は犯人が誰か推測できるように筆者が散りばめたヒントを意識して読むと良い。特に赤川次郎がお勧めだよ。」とのアドバイスを受けて、ミステリーを読み始めたことがありました。確かに、ミステリー小説というのは、いざ解決と言うときに今まで一切出てこなかった人が突然現れて「私が犯人です」。と言われ「誰？」と読者が思うことは余り無いのではないのでしょうか。普通は伏線が引かれていて、「なるほど」と思わせなければならないはずです。そこには、小説の筆者が計算した理論であったり、話の流れだったりがあるはず。そこを意識して読むことで相手を納得させる文章を書く力を伸ばす手助けになるのではないかと思います。

「技術者は技術と専門知識があれば良い」と私は学生の頃は思っていました。しかし、技術者だと文章を書かなくて良い訳ではなく、何か課題に対して行動を起こしたら、その結果をまとめて誰か（上司や同僚、先生など）に報告しなければなりません。社会に出れば、文系も理系もなく、どちらも理論的に考え、数字で根拠を示して、その結果を何も知らない人でも分かるように報告しなければなりません。報告する時には、これまで見てきた文章や、話しの構成の仕方が自分の書く報告書に大きく影響してくるのではないかと思います。

起こっている事実、問題を理論的に捉え、誰でも納得するような説明上手な技術者になるため、何か目的を定めて本を開いてみてはどうでしょうか。

# 特集 読書のすすめ

## 読書が新たな視点生む



材料工学科 岩田 憲幸

人は誰しも幼い頃から一度は、「他の人の意見を聞きなさい」とか、「もっと広い視野で物事を考えなさい」など、注意された経験があると思います。しかし、相手の意見を素直に聞いたり、物事を多面的に捉えたり、状況に応じて適切な考えを生み出したりすることはそれほど容易ではありません。その手助けの1つとして読書をするをおすすめします。

特に学生のうちに、科学や技術、研究者・技術者の本を熟読すると、それらの本からいつか、それまでの自分の感性にはない新たな考えに出会うことができるはずです。中国の歴史書『三国志』の中の『魏志（魏書）』にある「読書百遍意自ずから通ず」とはよくいったもので、内容のある本を熟読することほど自分の力になるものはありません。

最近、私が読んだ本の中で、「次元」に関するとても印象的な本がありました。

「次元」は、数学や物理の分野で様々な定義がされていますが、一般的に1点を「0次元」、直線領域を「1次元」、平面領域を「2次元（縦・横）」、空間領域を「3次元（縦・横・高さ）」としています。また、あの有名な4次元ポケットの「4次元」は、3次元の世界に時間という概念を加えたものとされています（これ以外にも次元の定義は様々あります）。

その「次元」という概念で物事を考えれば、それまで考えもしなかったことが発見できるようになります。たとえば、「三角形の内角の和は180度」というのは常識です。では、三角形において、「三角形の3つの角が3つとも90度」だといわれるとどうでしょうか。おそらく、すぐには納得できないと思います。しかし、それは2次元での話であって、3次元にまで話を広げてみるとこの三角形を作成することができるのです（それがどのような三角形になるかは、いろいろと考えてみてください）。

このように、読書は私たちに新たな視点をもたらします。そして、たとえ同じ本を読んでも、自分の心に残る内容は必ずしも他人と同じではありません。それまで全く興味がなかったことでも、急に興味がわいてくることも多々あります。

話題は変わりますが、幼少の頃、母の実家が鉄工所を営んでいたため、今はなき祖父が独自に考案した起毛機をつくる姿を目の当たりにして育ちました。また、その頃のアニメに超合金ロボットがよく登場していました。「超合金」という言葉に、「夢の材料」というイメージを持ったことを今でもはっきりと覚えています。当時はまだ、子どもが発明や科学に少なからずあこがれた時代。私もモノづくりに興味を持ち、材料工学科のある大学に進学しました。

ただ、学生時代は人工骨などの生体材料の研究に加えて、学部4年の時に知り合ってから、16年の親交をもつ韓国人の友人の影響を受けて韓国文化にも熱中し、大学院で博士の学位取得後には客員研究員として韓国の大学で仕事をした経験もあります。

転職は京大エネルギー理工学研究所で博士研究員をしていた時。直属の教授から優れた高温延性（高温での伸び）をもつ合金「酸化物分散強化（ODS）鋼」をつくる課題を与えられました。よい材料性能をもつODS鋼をつくるには、アルゴンガスの中で種々の金属や酸化物の粉末を機械的に合金化し、高温炉で焼き固めてつくるのが一般的ですが、高温での伸びを飛躍的に高めるためには、従来法を新しい観点から改良する必要がありました。

そこで、様々な論文や専門書を読み、そこから得た視点をエッセンスとして、従来法で使用していたアルゴンガスを水素ガスに置き換えて合金をつくってみました。繰り返し試みた結果、高温での伸びが従来のODS鋼の約2倍となる超合金「スーパーODS鋼」の創製に成功し、この成功体験がその後の研究心をさらに高めるきっかけとなりました。

同研究所に約9年間所属した後、本年4月に久留米高専に着任し、現在に至っていますが、常々思うのは、「読書が新たな切り口（視点）を生む」ということ。自ら得た新たな視点をもとに、自分の手を動かし、実際に行う。そうすれば、それまでとは全く異なる側面に気づかされることが多いはず。

壁にあたった時、読書を楽しむくらいがちょうどいいのではないのでしょうか。



## 私の一冊



中山 著

出ない順 試験に出ない英単語

飛鳥新社

私はこの冬センター試験を控えていないのですが、英語を勉強する気があまりないのでこの本を手に取りました。載っている例文も「新米看護師のクリスティは診療中に松葉杖でムーンウォークしていたため取り押さえられた」、「まったく、ポップのやつ、ちょっと乳輪が大きいからっていい気になって」等と明日からでも使えないものばかり、しかも例文と共にイラストが載っているので分かりやすい、とても素敵な本です。しかし、例文には役に立つ表現なども多く含まれているので、英語が苦手だと言われる高専生の皆さんの英語嫌いを少しでも解消するための手助けになることを願いつつ、私はこの本をお勧めします。

(機械工学科5年 赤司 和広)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定

百田 尚樹 著

永遠の0

講談社

舞台は第二次世界大戦、開戦当初世界最強の戦闘機といわれた零式艦上戦闘機がありました。高性能ゆえに無謀な作戦に投入され最後は特攻隊機として運用され、散ってゆくのは私たちと歳がほとんど変わらない若者たちです。主人公はそのパイロットの中のひとり、宮部久蔵の孫。とある理由で祖父のことを調べるために祖父との交流のある人物達に祖父の話を聞いてみることに。そこで明かされるのは悲惨な作戦の数々と祖父の“臆病者”というあだ名だった――

この作品に登場する宮部久蔵という人物は架空の人物ですが、内容は70年前に日本や太平洋の島々で行われていた本当の出来事です。また、太平洋戦争をあまり知らない人や興味の無い人でも、太平洋戦争の数々の作戦内容、軍部の誤った判断、最前線で戦い続ける若者達の命の尊さを改めて感じることでできる作品だと思います。この本を読んで、今私達がこうして平和に暮らせる毎日は、たくさんの若者達が命を懸けて守ったからこそ存在するんだなと実感することができるようになりました。

(電気電子工学科5年 山本 将広)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定

長谷部 誠 著

心を整える。―勝利をたぐりよせるための56の習慣―

幻冬舎

この本は、現サッカー日本代表キャプテン長谷部 誠選手の自己啓発本です。これはプロサッカー選手初の自己啓発本らしいです。長谷部選手が日常生活でスポーツマンに必要な56の習慣や、日本代表のキャプテンであることの誇りや重圧、海外の所属チームでの日本人としてのあり方など色々書いてあります。この本を読めば、心を整えることができると思います。ぜひ読んでみて下さい。ちなみに長谷部選手はミスチルが好きらしいですが、僕も好きです。

(制御情報工学科3年 横溝 恭佑)

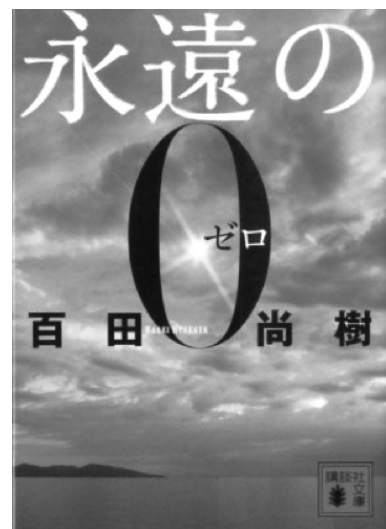
【図書館所蔵情報】 783・Z-H・2

THE FIRST 150 NONESSENTIAL VOCABULARY

# 出ない順

## 試験に出ない 英単語

著・中山  
イラスト・千野エー





# 私の一冊



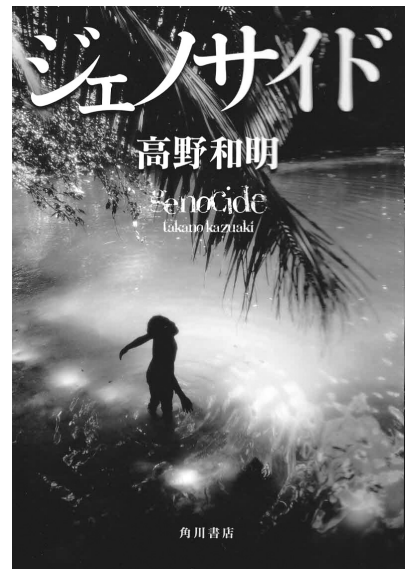
高野 和明 著  
ジェノサイド

角川書店

工業倫理の講義で私は高野和明著の「ジェノサイド」という小説を思い出させられた。タイトルは日本語で大量虐殺とあるが、創薬化学専攻の日本人院生と米国人傭兵の2つの人生が交錯する話だ。2人を結びつけるのは恐ろしく高い知能を持つ赤ん坊アキリで、新人類と呼ばれ創薬ソフトを作りあげる。それは現在では実現不可能な、どんな創薬をも可能とするものだった。もし現実それが開発されたら、人類科学は凄まじく進歩するだろう。しかし、その進歩に人類の倫理観は追いつけなくなるのではないか。現代の技術者倫理の課題はクローン技術など数多くある。技術者の卵である高専生にこそ読んで欲しい私の一冊だ。

(生物応用化学科3年 古賀 達也)

【図書館所蔵情報】 913・T・136



内田 篤人 著

僕は自分が見たことしか信じない 文庫改訂版 幻冬舎

所属チームや日本代表で不動の右サイドバックとなった内田篤人の情熱や苦悩、彼の生い立ち、自分のルールなどを語った本である。サッカー好きは皆彼を知っているはずだが、どのようなイメージを持っているだろうか。容姿がカッコいいのは勿論だが、目立ちたがらない、本音を言わない、めんどくさがりといった印象であろう。自分もそうだった。しかし、この本を読み、彼に対するイメージが大きく変わった。彼は本当の意味でカッコよく、男らしく、思いやりのある人間だった。ルールや考え方などとても参考になるものであり、真似できるところは真似したいと思うほど、これからの自分への素晴らしいアドバイスとなった。

(材料工学科5年 野田 真史)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



斎藤 孝 著

雑談力が上がる話し方  
30秒でうちとける会話のルール

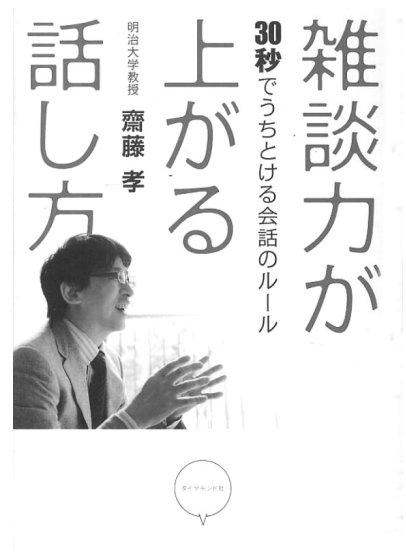
ダイヤモンド社

部活、バイト、仕事、知らない人とかわるのに最初に必要なのは会話です。しかしこれが以外にうまくいかない。年が違いすぎて何を話したらいいかわからない、話してみたら趣味が違いすぎて会話が続かない、よく会うけど挨拶だけで会話はそれだけというのは誰しもある経験だと思います。

相手の情報が全くないので、困るのは当然のこと。そこで必要なのが他愛のない会話をする雑談力です。雑談には中身も目的もありません。しかし、相手の興味が何に向けられているか、どんなことが好きか、さらには相手がどのような人間かを知ることでもあります。自分は話すのが下手だから、人見知りだから、と諦めないで雑談力を鍛えてみてはいかがでしょうか。

(専攻科機電1年 山本 悠真)

【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



# リレー連載「古典への誘い」

## 「古典」の現代的意義



一般科目（文科系・社会） 河合 伸治

「古典への誘い」というタイトルを目にしたとき、皆さんはどのような印象を抱くであろうか？古典とは音楽のジャンルでいえばクラシックに相当するものであり、えてして「いいものであることは否定できないものの、古めかしくて退屈すること必定であるゆえ、可能であれば敬して遠ざけたい…云々」というネガティブな印象をもっている人が多いのではないだろうか。

私は今でこそ経済学という学問を専門とし、住環境や公共財・サービスなどの非市場財（価格付けがなされないため市場メカニズムが働かないもの）の価値をどのようにすれば推定できるのかという、およそ古典とは無縁な研究を行なっているが、大学生の頃は「社会科学古典研究」という厳めしい名称のゼミナールに所属し、社会科学における「古典」を「原著」でひたすら読んでいた。そこではなぜ「古典」を学ばなくてはいけないのかということをおおいに学んだ気がする。

「古典」という言葉にはさまざまな意味があるが、世間一般では大辞林に書かれている「②過去のある時期まで尊重され、その後、新しい方法・様式に取って代わられた学問・技芸など」というネガティブな意味でとらえられているケースが多いように思われる。古臭くて…黴臭くて…時代錯誤で…という「古典」という言葉から連想される一連のイメージがここから来ていることは明白であろう。しかしながら私は、大辞林の「古典」という言葉のいまひとつの意味である「①学問・芸術などの分野で、古い時代に作られ、長い年月にわたる鑑賞を経て、現在もなど高い評価を受けている作品」というポジティブな意味でこの言葉をとらえるべきだということ。「社会科学古典研究」と称するゼミナールで学ぶことができた。現代まで残っている「古典」は時代の荒波に揉まれて厳しい批判に晒されながらも、淘汰されずに現代まで残っているという意味において、何らかの普遍的な意味を有しているはずである。時流に乗って書かれて一時的におおいなる賞賛を受けてからあっという間に消えて行った書物の多くは、その時代のその場所においては読むに値するものであったかもしれないが、現代に通底するような

普遍的な意義を提示しえなかったために、現代に至る過程の中で淘汰され消えてしまったと考えるのが妥当であろう。このように考えると、長い年月を経てもなお現代に残っている「古典」とは、多くの人々が普遍的な価値を有することを認めざるを得ないような「知の遺産」であり、現代の「知」の「核」といえる部分の多くは「古典」によって構成されていると言わざるをえない。したがって、現代社会に生起する問題を考える時には「古典」に立ち返って考えなくてははいけなし、逆に現代社会に生起する問題に何の示唆を与えることができない「古典」はもはや「古典」としての価値を失った「過去の遺物（前述の大辞林における「古典」②の意味がまさにこれであろう）」に墮してしまいやがて淘汰され消え行くであろう。「古典」とは絶えず現代的意義を問われ続けているものであり、現代に通底する普遍的な意義を示し続けることによりのみ「古典」であり続けることができる。このように考えてみると、現代においてそれぞれの学問分野で「古典」として残っているものがいかに価値があるか、少しは分かってもらえたのではないだろうか。

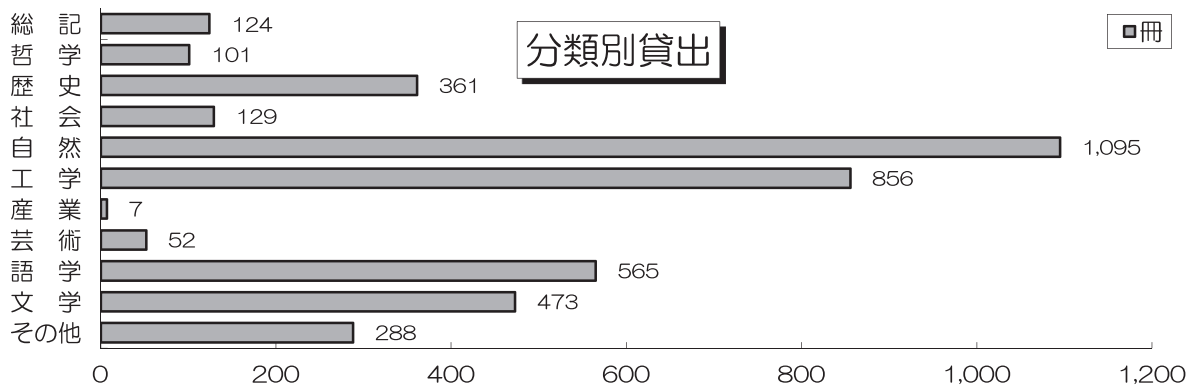
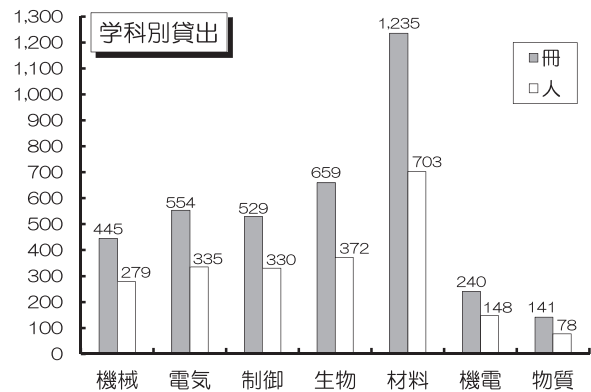
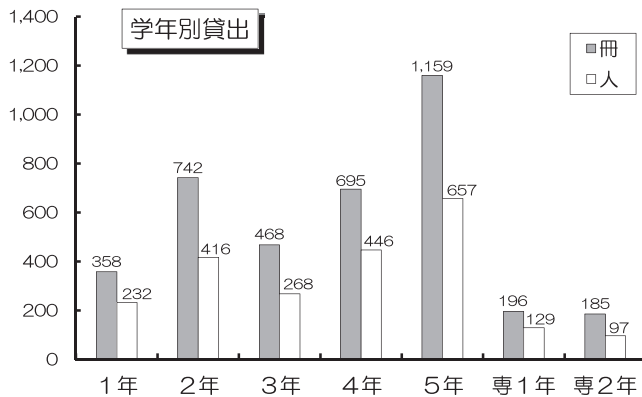
いやしくもその分野を自分の専門として学ばんと志す学徒であれば、その分野における「古典」と呼ばれている名著を繙いて欲しい。その時は可能な限り「概説書」ではなく「原著」にあたることを強くお勧めしたい。なぜならば、「概説書」はその「概説書」を書いた著者の主観や解釈が少なからず含まれてしまうために、「原著」で本来著者が伝えたかったことが歪められて伝わってしまうことが多々あるからである。もちろん日本語に翻訳されたものを読んでいる時点で翻訳者の主観や解釈が混ざるため、「原語」で記された文字通りの「原著」にあたってもらうのが一番であるが、皆さんにそこまで求めるのは望蜀にすぎるといふものであろう。冬休みに一人でも多くの皆さんが「古典」に挑戦してくれることを期待しつつ筆を擱くことにしたい。



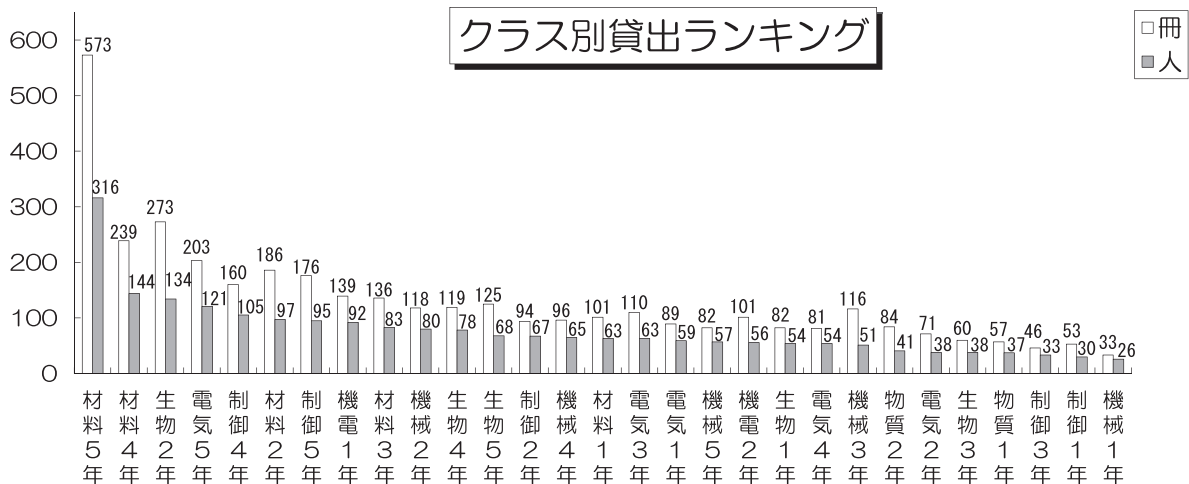
# 平成25年度前期 図書館利用状況

## ◆開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数 (内数)	一日平均入館者数 (四捨五入)	開館時間
		平日		土曜日	合計			
		時間内	時間外					
4	18	3,292	373	139	3,804	26	211	平日(時間内) 9時~17時
5	24	4,281	1,191	294	5,766	49	240	平日(時間外) 17時~20時
6	25	3,221	531	244	3,996	31	160	土曜日 9時~17時
7	25	3,238	443	64	3,745	24	150	4/1~4/7は休館
8	21	1,513	0	0	1,513	24	72	
9	23	3,419	847	316	4,582	16	199	
合計	136	18,964	3,385	1,057	23,406	170	173	



※ 分類別貸出冊数には、教職員及び一般利用者貸出冊数を含む。



# Information

下記のとおりお知らせいたします。開館日時の変更にはご注意ください。



## ◆特別(長期)貸出について

冬季休業中の特別(長期)貸出は下記のとおりです。

- ・貸出期間：12月12日(木)から12月25日(水)まで
- ・返却期限：1月8日(水)
- ・貸出冊数：5冊以内

(一般利用者及び教職員は通常貸出です。)

## ◆開館日時の変更及び休館日について

冬季休業及び年末年始は下記のとおりです。

- 12月23日(月) 休館(天皇誕生日)
- 24日(火) 9時～17時
- 25日(水) 9時～17時
- 12月26日(木)～1月5日(日) 休館
- 1月6日(月) 9時～17時
- 7日(火) 9時～20時  
以降通常どおり

## ◆卒業・修了予定者への貸出等について

今年度卒業・修了予定者への貸出は下記のとおりです。

貸出：2月14日(金)まで 返却：2月28日(金)まで



## ◆◆図書館からのお願い◆◆

図書返却日の厳守

閲覧室での飲食禁止

携帯電話の使用禁止

騒がしい行為・会話の禁止

## 《編集後記》

皆様のおかげで、図書館だより第83号をお届けすることができました。楽しんで頂けたでしょうか。編集後記の原稿の提出がかなり遅れてしまい、ご迷惑をおかけしました。

図書館だより第83号はいかがだったでしょうか。基本的な構成はこれまでの図書館だよりと同じですが、今号からリレー連載の題を「古典への誘い」に限らず、先生方の読書体験も書いて頂けるようにしました(今号では「古典への誘い」で書いて頂きました)。巻頭エッセイや他の項目との違いが分かり難くなるかもしれませんが、先生

方の読書体験やお勧めの本など、幅広く紹介して頂けると思います。

改修後の図書館の使い心地はいかがでしょう。授業以外でも、勉強などで使っているようで、うれしく思っています。図書館では、年2回ブックハンティングを行い、学生の皆さんに直接本を選んでもらっています。本に興味ある方は、ぜひ参加して下さい。

図書館の利用について、また、読みたい本類についてなど、ご要望をお寄せください。今後の活動の参考にさせていただきます。

(編集委員長 山崎有司)

発行日：平成25年12月16日

発行・編集：久留米工業高等専門学校図書館 Tel:0942-35-9306 Fax:0942-35-9207  
〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号 E-mail:L-staff.SAD@ON.kurume-nct.ac.jp